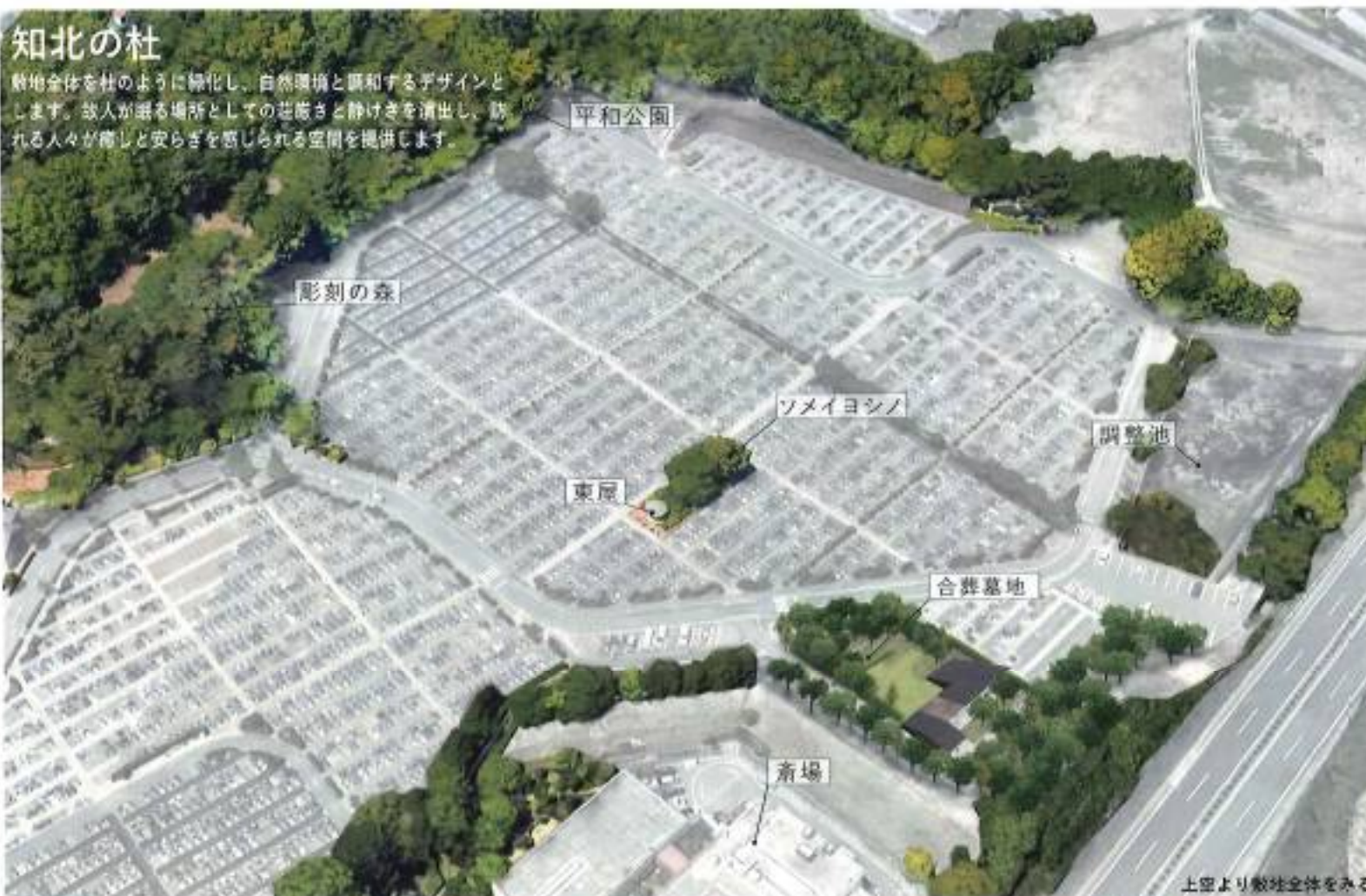


# 知北の杜

敷地全体を杜のように緑化し、自然環境と調和するデザインとします。故人が眠る場所としての荘厳さと静けさを演出し、訪れる人々が癒しと安らぎを感じられる空間を提供します。

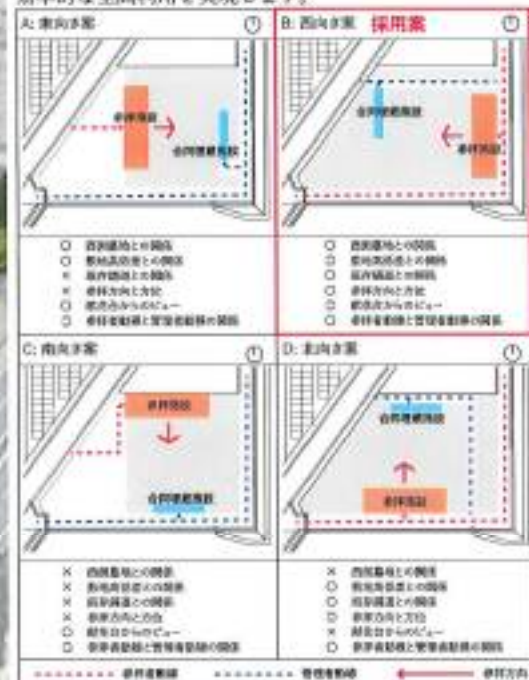


上空より敷地全体をみる

## ■設計方針

敷地の傾斜を活かした効率的で自然調和型の設計

建物の配置については、昨年度作成された業務報告書にある東向き配置に加え、西向き、南向き、北向きの配置を検討しました。その中から動線が機能的であることと、礼拝時に借景として知北平和公園の緑を活かせることから西向き配置案を採用。自然との調和を図りつつ、効率的な空間利用を実現します。



## ■基本理念

知北平和公園の景観を活かした緑豊かな安らぎの空間

少子高齢化・核家族化の進行、お墓に関する意識の変化に伴い、墓地の需要も変化しています。知北霊園では区画墓地の新規利用者数より返還者数が多い状況が続いており、未利用区画の増加を防ぐため、新たな利用者を増やす施策が求められています。知北平和公園の景観を借景として活かし、訪れる人々に自然との一体感を感じさせる計画です。建物を敷地の東側に配置し、西向きに礼拝できるように設計することで、自然に向かって祈りを捧げることができる環境を整備します。



## ■スケジュール

実現可能な計画を遂行する業務工程

初期に知北平和公園組合をはじめとする関係者への綿密なヒアリングを行い、初期段階から全体計画を見据え、業務ごと、段階ごとの到達点を明確にします。工程に遅延がないよう、期限を明確にしたロードマップを作成し、各段階でのチェックを欠かさず業務を進めます。

## ■業務工程表



## ■体制図

合葬墓専門家による業務実施体制

公共の合葬墓地、寺社の墓苑や樹木葬墓地、公園施設などの十分な設計監理実績、意欲と志の高い建築、土木、造園の技術者でチームを構成しています。その実績は国内外の建築賞やデザイン賞で高く評価されてきました。日本では数少ない霊園や墓地についての専門的知見を備えたチームで、知北平和公園の未来を見据え、市民に永く愛される施設をつくります。



## ■事業費内訳

サステナブル目標の業務実施体制 建設から維持管理まで、サステナブルな目標をもちながら、合葬墓地を整備します。工事費については、過去実績である公共のH型園合葬墓所の工事費をもとに、昨今の工事費の値上りを考慮して概算しています。

## ■概算工事費

工種	金額(円)
建築工事(葬儀施設)	95,780,000
建築工事(共同埋葬施設・大規模管理施設)	33,360,000
土木・造園工事	51,180,000
園路の整備	14,760,000
合計	295,080,000





#### ■参拝方法

**開放的な礼拝所と自然光を取り入れた空間設計**  
 建物中央の開放的な礼拝所は、自然光を取り入れた明るい空間とします。献花台は屋内だけでなく半屋外まで伸ばし十分な長さを確保することで、お彼岸やお盆など参拝者が多い時期でも対応できるようにします。参拝待ちの人が座って待つことができるベンチを設置し、落ち着いて故人と向き合うことができる場を提供します。



南側アプローチをみる

#### ■造園計画

**森の木々を活かした癒しのアプローチ**  
 木々の間を抜けるアプローチを設け、訪れる人々が自然の中で祈りに向かう気持ちを整えられるよう配慮します。献花台から見える緑の丘は壁による枯山水とし、風にそよぐ笹は空を見立て、天界を示します。自然環境を最大限に活かし、故人が眠る杜を作り上げます。



東西断面図



礼拝室から個別収蔵室をみる

#### ■景観設計

**故人が眠る森と緑の丘の景観創出**  
 合同埋蔵施設は、最小限の切土と盛土により地中化し、環境への配慮を重視します。故人が杜に眠るというコンセプトを具現化し、自然環境との調和を図ります。



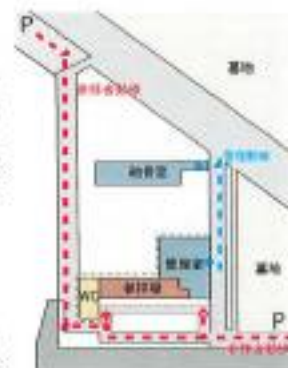
南北断面図

#### ■配置計画

利用者と作業員の動線を分けた効率的な配置  
 利用者と作業員の動線を分けた効率的な配置  
 礼拝所やトイレ、管理事務所は敷地内の高いレベルに、個別収蔵室や倉庫は低いレベルに配置し、利用者と作業員の動線を分けます。敷地内北側の低いレベルに沿って裏動線を設け、個別収蔵室、合同埋蔵施設に対してフラットにアクセスできるようにし、納骨時の作業員の負担を軽減します。

#### ■平面計画

バリアフリー対応のフラットなアクセス  
 バリアフリー対応のフラットなアクセスルート  
 南側と北側で2mのレベル差を考慮した平面計画を行い、バリアフリー化します。礼拝所から合同埋蔵施設や個別収蔵室に収容された遺骨に対して正面に向き礼拝できるように配置します。



平面図





北東アプローチと建物を見る

■構造計画

耐震コア設計と木の温もりが感じられる空間  
耐震コア設計と木の温もりが感じられる空間  
建物両側にトイレや管理などの壁が多く出てくる部屋を配置、それらを耐震コアとすることで、中央の礼拝所を壁のない開放的な空間とします。礼拝所では木造の梁を現し、木の温もりが感じられます。



■環境対策とコスト管理

持続可能な運営と環境保全の取り組み  
自然環境との調和を図り、持続可能な設計を採用することで、環境への負荷を最小限に抑え、運営コストを抑えます。屋内礼拝所は中間期は自然換気と自然採光を活用します。持続可能な運営を実現し、環境保全に貢献します。



■立面計画

木造瓦屋根と焼杉板による和風外  
フラットなアクセスが可能でバリアフリー設計の納骨方法を説明します。作業員の負担を軽減し、遺族が自ら納骨できる環境を整備します。裏動線を設け、納骨準備室、個別収蔵室へのアクセスを容易にします。納骨の際のストレスを軽減し、円滑な運営を図ります。



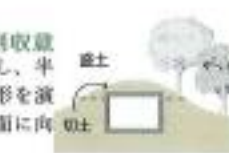
■納骨方法

敷地高低差を活かした円滑な納骨環境  
個別収蔵室、合葬埋葬施設、火葬残骨埋蔵施設は北側裏動線から車を横付けしてフラットにアクセスできるようにし、納骨作業の負担を軽減します。礼拝所のレベルと裏動線のレベルが異なることから、礼拝所からは納骨作業が見えないように配慮します

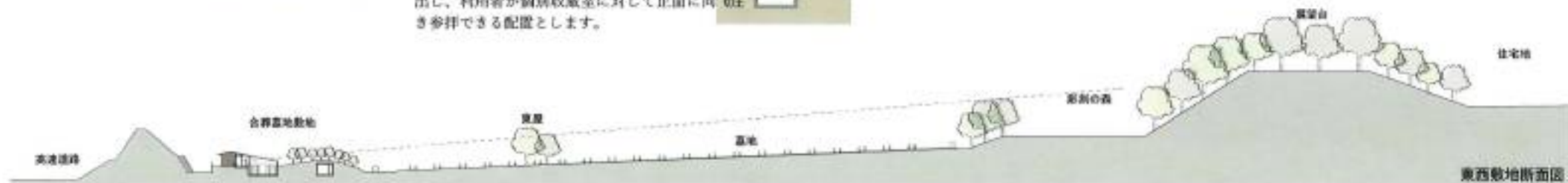


■個別収蔵施設の仕様

故人が大地に還る形を象徴する個別収蔵  
個別収蔵室は敷地南北の高低差を活かし、半地下とすることで、故人が大地に還る形を演出し、利用者が個別収蔵室に対して正面向き参拝できる配置とします。



配置図



東西敷地断面図